

館林市立学校適正規模・適正配置 南地区検討委員会

第2回 議題資料

目次

南地区の現状と課題解決の方向性検討

1. 小学校の配置と通学区域	3
2. 中学校の配置と通学区域	4
3. 適正規模・適正配置	5
4. 学校再編の方法	6
5. 通学区域の現状	7
6. 南地区の概要	8
7. 児童生徒数及び学級数の推移	9
8. 南地区の小学校及び中学校	11

■ 付属資料

付属資料1: 小学校の学区(通学区域)概略図

付属資料2: 中学校の学区(通学区域)概略図

付属資料3: 分散進学状況

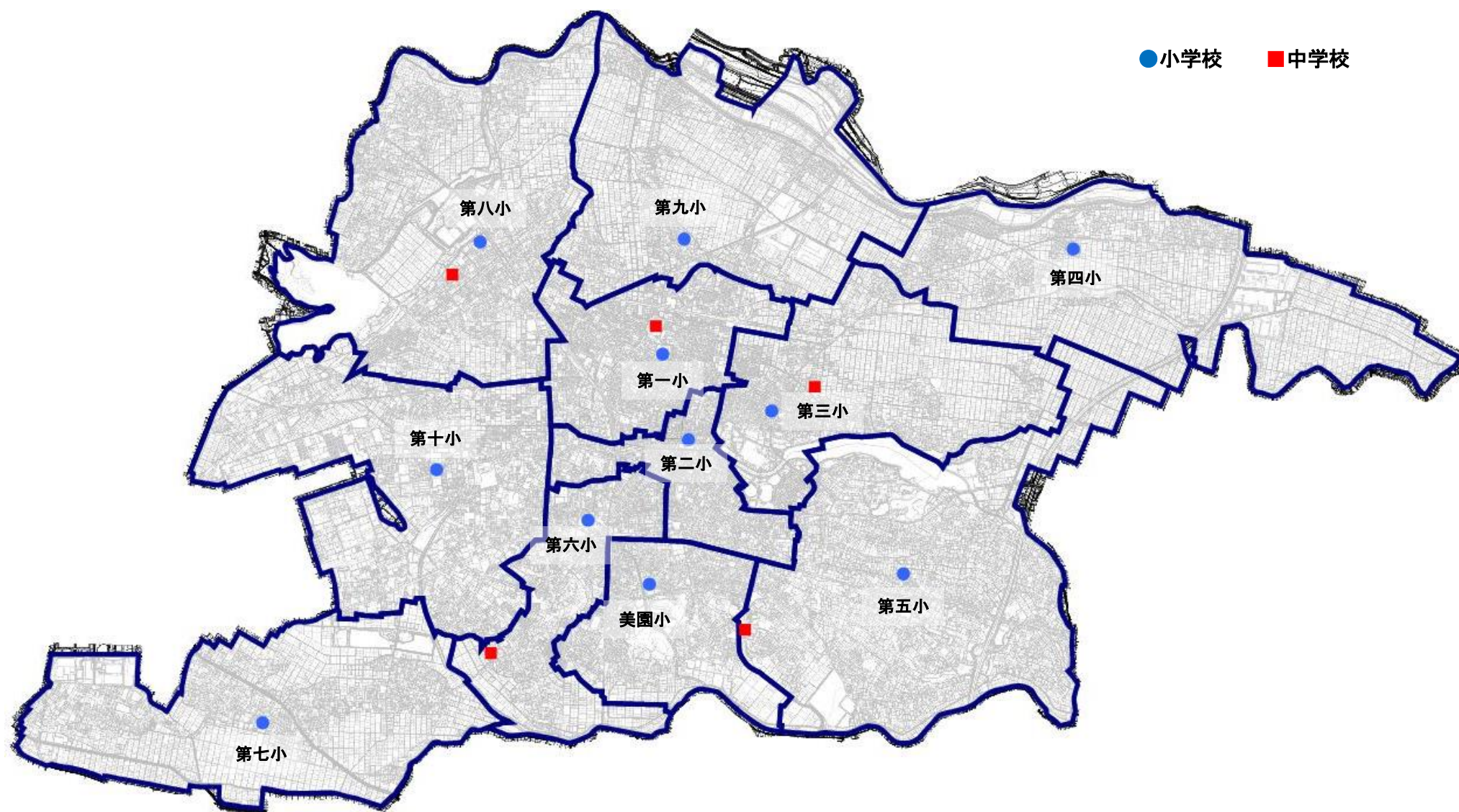
付属資料4: 学校規模と将来推計

付属資料5: 館林市立小中学校教室数一覧

付属資料6: 学校施設の状況

1 小学校の配置と通学区域

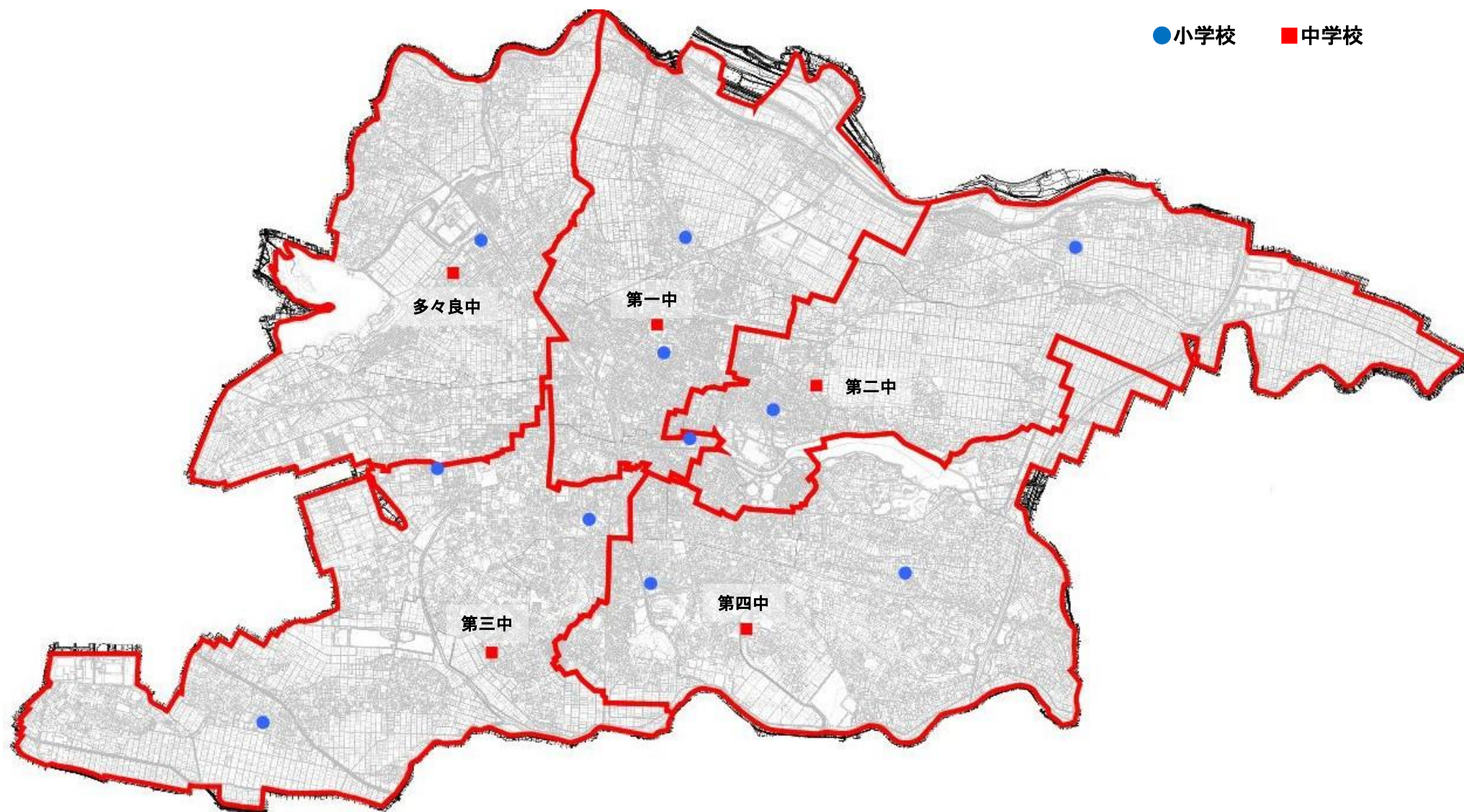
➤ 付属資料1: 小学校の学区(通学区域)概略図



(出典) 館林都市計画基本図データを使用して作成

2 中学校の配置と通学区域

➤ 付属資料2: 中学校の学区(通学区域) 概略図



(出典) 館林都市計画基本図データを使用して作成

3 適正規模・適正配置

➤基本方針(P.7~9)

■本市における小中学校の適正規模の基準

学校	学級数・児童生徒	適正規模の基準
小学校	1校あたりの学級数	全学年2学級以上とする12学級以上
	学年単学級の場合の児童数 (※1)	1学級16人以上30人以下(1・2年生) 1学級18人以上35人以下(3年~6年生)
中学校	1校あたりの学級数	全学年3学級以上とする9学級以上

(※1) 学校再編が行われるまでの暫定基準

■本市における小中学校の適正配置の基準

通学時間は概ね「40分以内」(徒歩通学の場合、通学時間40分で通学できる距離を計算)

学校	通学方法	通学距離
小学校	徒歩	概ね 2.3 km以内
	代替交通手段(スクールバス等)	2.3 km超
中学校	徒歩	概ね 2.8 km以内
	自転車	概ね 6.0 km以内(国の適正な通学距離の基準)
	代替交通手段(スクールバス等)	6.0 km超

◆通学距離については、通学路の実態、天候事情等を勘案し、学校ごとにその実情に応じた判断が必要となり、参考にしながら柔軟に考えていくこととする。

1. 学校の統合

① 新設校としての設置

- ・対象校の規模(学級数や児童生徒数等)及び創立時からの経過年数にかかわらず、対等な関係の統合とする。
- ・統合の組み合わせ、学校の設置、学校施設の状況等により、適正規模の基準を維持している学校も統合の対象校とする。

② 設置場所

- ・原則、統合対象のいずれかの校地と既存校舎を利活用する。
- ・校舎は校地面積、建築年数、施設の状況や教室数、周辺環境、児童生徒の通学距離などを勘案し決定していく。また、状況に応じて教育環境の更なる充実を図る。

2. 通学区域の見直し

■ 配慮する事項

- ・通学路の安全、通学距離、隣接校の児童生徒数、学校と地域とのこれまでの関係などに配慮する。

■ 丁寧な説明と合意形成

- ・通学区域を見直す際には、保護者や地域に対し、その意義と内容を説明し、理解を深める場を設定する。

■ 段階的な変更の実施

- ・事例によっては、段階的に通学区域の変更を進めることとする。

■ 分散進学の解消と小中学校の連携強化

- ・分散進学の解消: 同一小学校から中学校へ通学できる配置をする。
⇒ 小中連携を図り、義務教育9年間を見通したカリキュラムを編成

留意事項

① 児童生徒や保護者への配慮

児童生徒の不安や負担を軽減し、保護者の意見に丁寧に耳を傾け、寄り添った対応を行う。

② 通学時の安全

安全な通学路の確保や見守り体制の充実など、通学時の安全確保を最優先に取り組む。

③ 地域への配慮

地域の絆や伝統、コミュニティのつながりを尊重し、地域の理解と協力を得ながら進める。

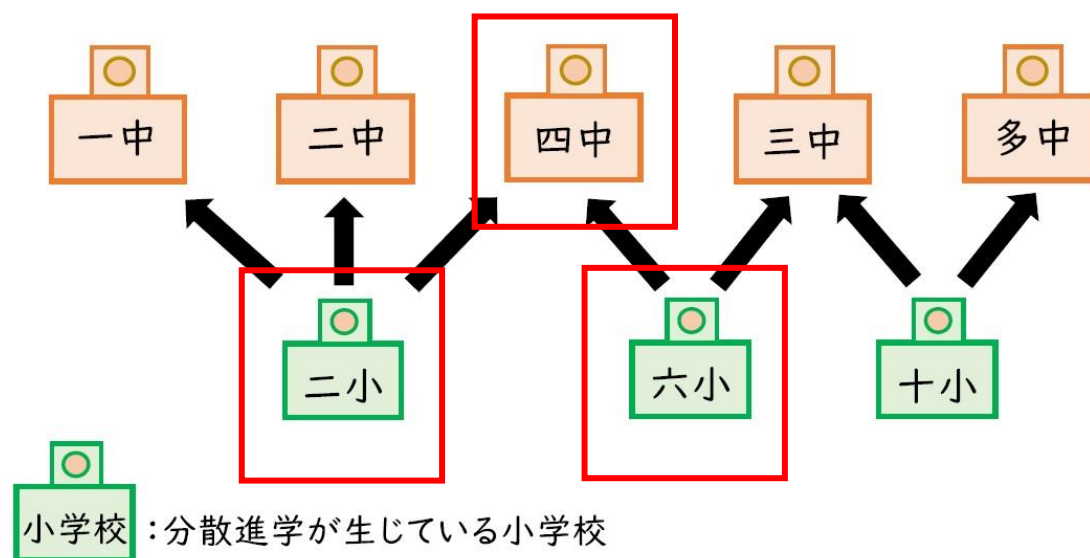
④ 学校の跡地活用

地域の状況やニーズを踏まえ、総合的な観点で新たな活用方法を検討する。

5 通学区域の現状

■通学区域の状況(分散進学)

現行の通学区域においては、下図のとおり、2つの小学校の通学区域が複数の中学校にまたがる分散進学が生じている。



■分散進学による懸念事項

①友人関係の分断

児童が複数の中学校に分かれて進学すると、友人関係が途切れ、不安や負担につながるおそれがある。

※「館林市教育環境に関するアンケート調査」では、小中学生では人間関係に関する心配が最も高い。

②中1ギャップの懸念

生活環境や人間関係が大きく変わるため、中学校生活への適応が難しくなる可能性がある。

③小中連携のハードル

1つの小学校が複数の中学校に分かれると、授業・生徒指導・学校行事などの連携がしにくくなる。

④地域コミュニティへの影響

進学先が分散すると、地域の行事や教育支援活動(ボランティア活動、PTA 活動など)が効率的に行えなくなる可能性がある。

■第二小学校の分散進学の状況

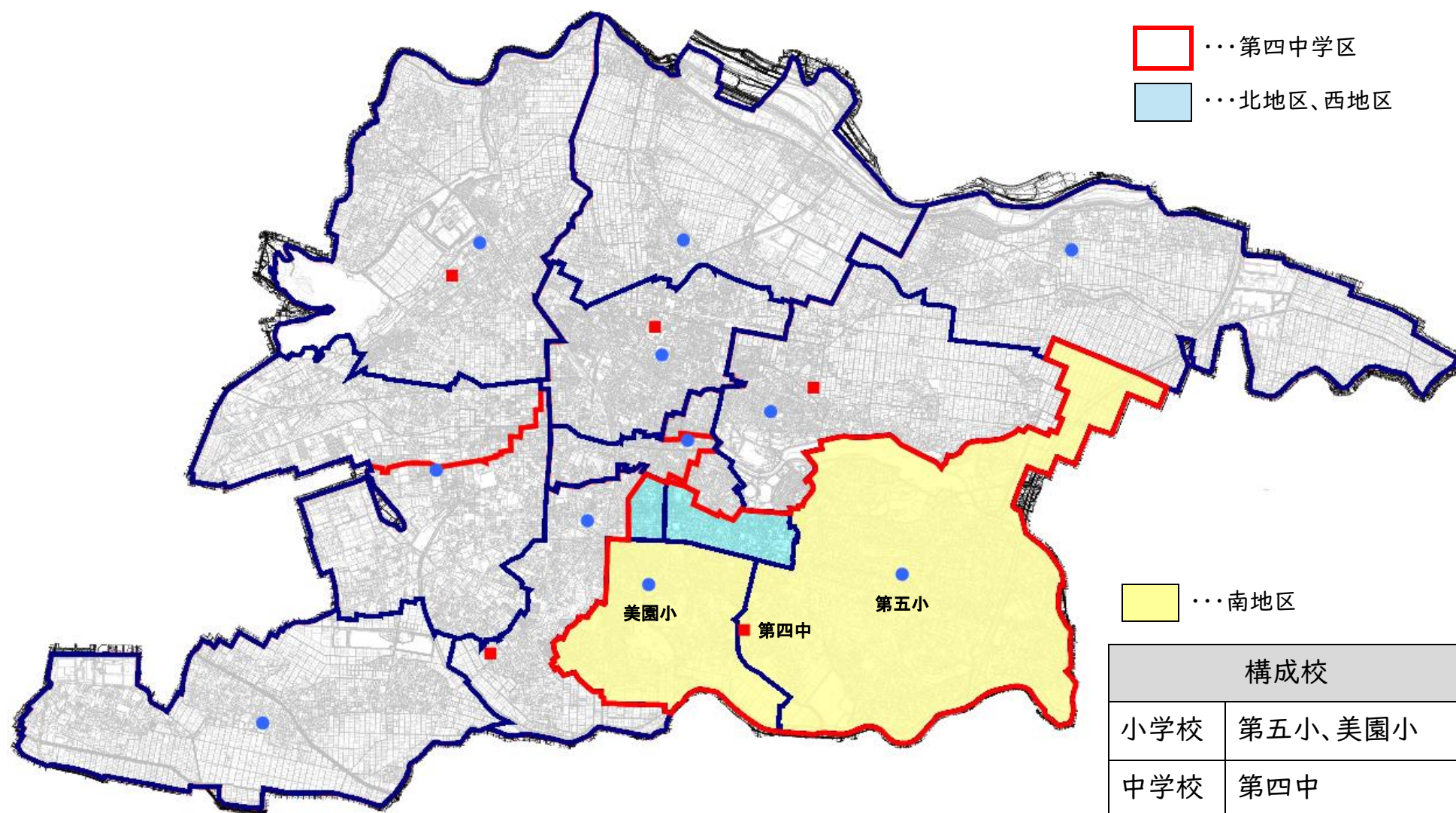
	R3		R4		R5		R6		R7		R8	
進学先	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
一中	19	39	19	37	24	48	21	42	25	43	12	27
二中	15	31	10	19	11	22	9	18	9	15	10	23
四中	12	24	21	40	11	22	17	34	20	34	19	43
私立・県外	3	6	2	4	4	8	3	6	5	8	3	7
合計	49	100	52	100	50	100	50	100	59	100	44	100

■第六小学校の分散進学の状況

	R3		R4		R5		R6		R7		R8	
進学先	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
三中	47	84	49	96	41	79	45	88	42	86	48	96
四中	6	11	1	2	8	15	1	2	4	8	0	0
私立・県外	3	5	1	2	3	6	5	10	3	6	2	4
合計	56	100	51	100	52	100	51	100	49	100	50	100

6 南地区の概要

➤付属資料3:学校規模と将来推計



(出典) 館林都市計画基本図データを使用して作成

7 児童生徒数及び学級数の推移

➤ 付属資料4: 学校規模と将来推計

	適正規模未満
	学年単学級存在

2校中1校が学年単学級

R8比で児童数は51.5%減の見込み
2校が全学年単学級となる見込み

学校		H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19
五小	児童数	424	409	382	364	341	321	307	293	286	268	257	239	226	218	200	196	176	161	152	144	136	128	121
	学級数	15	13	12	12	12	12	12	12	12	12	12	10	10	10	8	7	6	6	6	6	6	6	6
美小	児童数	490	471	471	447	440	407	395	378	349	339	318	312	287	274	239	233	216	198	186	175	165	155	146
	学級数	17	16	18	16	17	14	13	13	12	12	12	12	12	12	11	11	10	8	7	7	7	6	6
計	児童数	914	880	853	811	781	728	702	671	635	607	575	551	513	492	439	429	392	359	338	319	301	283	267
	学級数	32	29	30	28	29	26	25	25	24	24	24	22	22	22	19	18	16	14	13	13	13	12	12

学校		H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19
四中	児童数	551	560	540	533	512	520	493	465	437	420	408	391	388	367	364	329	307	273	259	246	234	222	211
	学級数	16	16	15	14	15	15	14	14	14	14	13	12	12	12	12	11	10	9	9	8	7	7	7

※令和9年度から令和14年度までは、令和8年4月現在の各校での児童生徒在籍数、住民基本台帳における小学校新入生予定数、そして、中学校新入生進学率を基に児童生徒数を算出し、そこから学級数を算出。

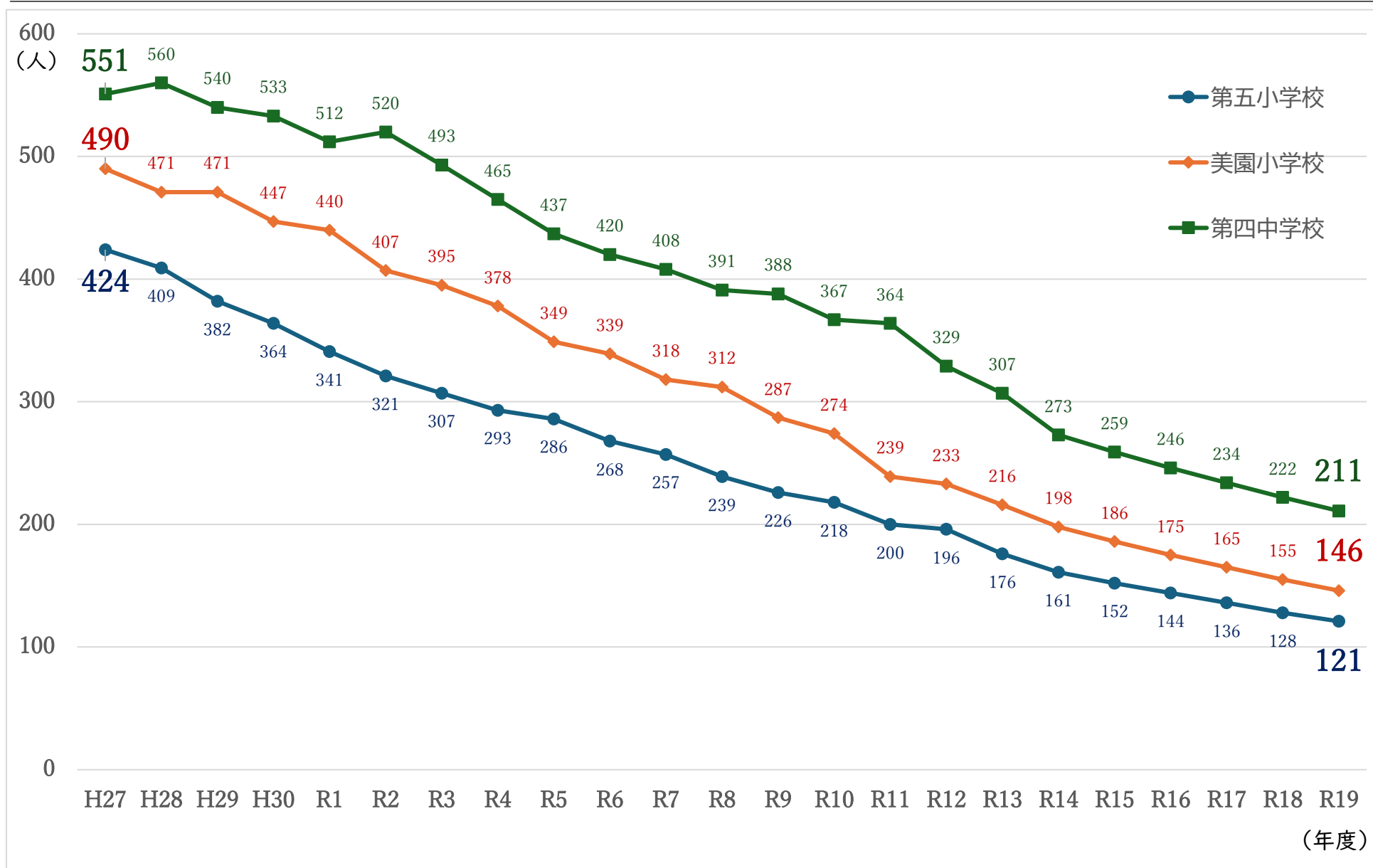
※令和15年度以降は、令和8年度から令和14年度までの増減率を基に1年ごとの学校全体の児童生徒数を算出。さらに、算出された学校全体の児童生徒数から児童生徒在籍数を引き算し、小中学校の新入学生数を推計値として算出。

適正規模を維持

R8比で生徒数は46%減の見込み

7 児童生徒数及び学級数の推移 [小中学校児童生徒数の推移]

➤ 付属資料4: 学校規模と将来推計



8 南地区の小学校及び中学校〔第五小学校〕

➤付属資料5:館林市立小中学校教室数一覧

➤付属資料6:学校施設の状況



基本概要 (R8)			
所 在	館林市羽附町乙1565	創立年	明治7年
建築年度	昭和51年度	校舎面積	3,635 m ²
教室数	26 (※学校適正配置推進室調べ)		
進学先	四中		
周辺施設	赤羽公民館、赤羽児童館 等		
放課後児童クラブ	赤羽児童クラブ、たてくら学童クラブ		
学校再編に関する主な事項			
R8時点	・児童数239人、学級数10 (特別支援学級を除く) ・2つの学年が 学年単学級		
R13時点	・全学年が 学年単学級 となる見込み		
R16時点	・1つの学年が 適正規模の暫定基準を下回る 見込み ・全学年が 学年単学級 となる見込み		
R19時点	・児童数121人、学級数6 (特別支援学級を除く) ・2つの学年が 適正規模の暫定基準を下回る 見込み ・全学年が 学年単学級 となる見込み		

(出典) 国土地理院「地理院タイル(写真地図)」

(出典) 創立年及び校舎面積は「令和7年度館林市の教育」を基に作成
建築年度は「館林市公共施設等総合管理計画(令和4年3月改訂版)」を基に作成

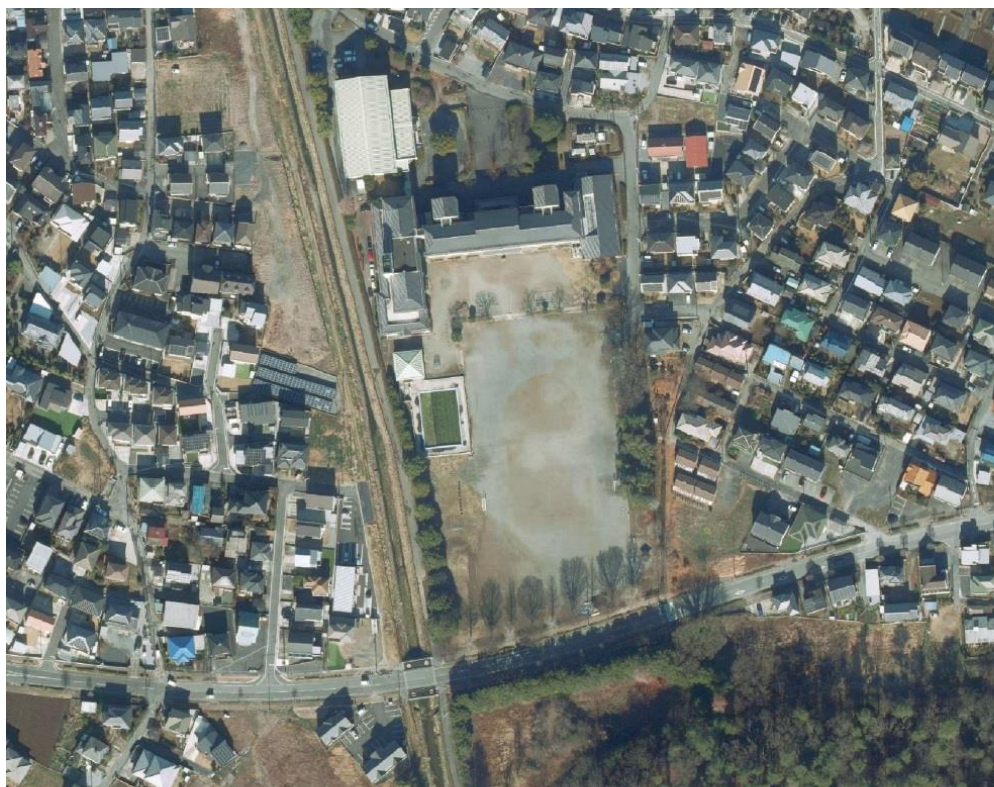
■児童数及び学級数の推計

学校名	学年	R8 (年度)			R9		R10		R11		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
		児童数		学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
		通常	特支																							
五小	1	31	1	1	34	2	34	2	27	1	30	1	19	1	17	1	25	1	26	1	19	1	22	1	12	1
	2	38	1	2	32	1	34	2	34	2	27	1	30	1	19	1	17	1	25	1	26	1	19	1	22	1
	3	33	1	1	39	2	32	1	34	1	34	1	27	1	30	1	19	1	17	1	25	1	26	1	19	1
	4	43	2	2	34	1	39	2	32	1	34	1	34	1	27	1	30	1	19	1	17	1	25	1	26	1
	5	40	2	2	45	2	34	1	39	2	32	1	34	1	34	1	27	1	30	1	19	1	17	1	25	1
	6	45	2	2	42	2	45	2	34	1	39	2	32	1	34	1	34	1	27	1	30	1	19	1	17	1
	特支	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計		239		12	226	10	218	10	200	8	196	7	176	6	161	6	152	6	144	6	136	6	128	6	121	6

8 南地区の小学校及び中学校 [美園小学校]

➤ 付属資料5: 館林市立小中学校教室数一覧

➤ 付属資料6: 学校施設の状況



(出典) 国土地理院「地理院タイル(写真地図)」

基本概要 (R8)			
所 在	館林市美園町 27-1	創立年	平成3年
建築年度	平成2年度	校舎面積	5,142 m ²
教室数	33 (※学校適正配置推進室調べ)		
進学先	四中		
周辺施設	分福公民館、美園保育園 等		
放課後児童クラブ	第1・第2美園学童クラブ、青柳児童クラブ A・B		
学校再編に関する主な事項			
R8時点	・児童数312人、学級数12 (特別支援学級を除く) ・適正規模を維持している		
R11時点	・1つの学年が 学年単学級 となる見込み		
R17時点	・1つの学年が 適正規模の暫定基準を下回る 見込み ・5つの学年が 学年単学級 となる見込み		
R19時点	・児童数146人、学級数6 (特別支援学級を除く) ・1つの学年が 適正規模の暫定基準を下回る 見込み ・全学年が 学年単学級 となる見込み		

(出典) 創立年及び校舎面積は「令和7年度館林市の教育」を基に作成

建築年度は「館林市公共施設等総合管理計画(令和4年3月改訂版)」を基に作成

■ 児童数及び学級数の推計

学校名	学年	R8（年度）			R9		R10		R11		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
		児童数		学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
		通常	特支																							
美園小	1	41	4	2	36	2	46	2	25	1	35	2	29	1	27	1	24	1	35	2	15	1	25	1	20	1
	2	42	4	2	45	2	36	2	46	2	25	1	35	2	29	1	27	1	24	1	35	2	15	1	25	1
	3	40	1	2	46	2	45	2	36	2	46	2	25	1	35	1	29	1	27	1	24	1	35	1	15	1
	4	51	9	2	41	2	46	2	45	2	36	2	46	2	25	1	35	1	29	1	27	1	24	1	35	1
	5	54	5	2	60	2	41	2	46	2	45	2	36	2	46	2	25	1	35	1	29	1	27	1	24	1
	6	57	4	2	59	2	60	2	41	2	46	2	45	2	36	2	46	2	25	1	35	1	29	1	27	1
	特支	—	—	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	合計	312		17	287	12	274	12	239	11	233	11	216	10	198	8	186	7	175	7	165	7	155	6	146	6

8 南地区の小学校及び中学校〔第四中学校〕

➤付属資料5:館林市立小中学校教室数一覧

➤付属資料6:学校施設の状況



(出典)国土地理院「地理院タイル(写真地図)」

基本概要 (R8)			
所 在	館林市上赤生田町3471-1	創立年	昭和60年
建築年度	昭和59年度	校舎面積	5,455 m ²
教室数	33 (※学校適正配置推進室調べ)		
学区内	二小(一部)、五小、六小(一部)、美園小		
周辺施設	赤羽公民館、分福公民館 等		
学校再編に関する主な事項			
R8時点	・生徒数391人、学級数12(特別支援学級を除く) ・適正規模を維持している ・二小(一部)と六小(一部)からの分散進学先		
R16時点	・1つの学年が適正規模を下回る見込み		
R19時点	・生徒数211人、学級数7(特別支援学級を除く) ・2つの学年が適正規模を下回る見込み		

(出典)創立年及び校舎面積は「令和7年度館林市の教育」を基に作成

建築年度は「館林市公共施設等総合管理計画(令和4年3月改訂版)」を基に作成

■生徒数及び学級数の推計

学校名	学年	R8 (年度)			R9		R10		R11		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18		R19	
		生徒数		学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
		通常	特支																							
四中	1	115	10	4	123	4	119	4	122	4	88	3	97	3	88	3	98	3	68	2	68	2	86	3	57	2
	2	134	6	4	125	4	123	4	119	4	122	4	88	3	97	3	80	3	98	3	68	2	68	2	86	3
	3	122	4	4	140	4	125	4	123	4	119	4	122	4	88	3	81	3	80	3	98	3	68	2	68	2
	特支	—	—	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	合計	391		16	388	12	367	12	364	12	329	11	307	10	273	9	259	9	246	8	234	7	222	7	211	7

8 南地区の小学校及び中学校〔各学校の現状と課題〕

■ 小学校

適正規模の課題		解決の方向性
第五小学校	R8時点：2つの学年が学年単学級 R13時点：全学年が学年単学級の見込み R16時点：1つの学年が適正規模の暫定基準を下回る見込み 全学年が学年単学級の見込み R19時点：2つの学年が適正規模の暫定基準を下回る見込み 全学年が学年単学級の見込み	
美園小学校	R8時点：適正規模を維持 R11時点：1つの学年が学年単学級の見込み R17時点：1つの学年が適正規模の暫定基準を下回る見込み 5つの学年が学年単学級の見込み R19時点：1つの学年が適正規模の暫定基準を下回る見込み 全学年が学年単学級の見込み	

8 南地区の小学校及び中学校 [各学校の現状と課題]

➤付属資料5:館林市立小中学校教室数一覧

➤付属資料6:学校施設の状況

■中学校

適正規模の課題		解決の方向性
第四中学校	R8時点：適正規模を維持 R16時点：1つの学年が適正規模を下回る見込み R19時点：2つの学年が適正規模を下回る見込み	
分散進学の実状		解決の方向性
第四中学校	二小(一部)、五小、六小(一部)、美園小	